

写真展「山崎川周辺いまむかし」関連資料の紹介

中日新聞 令和5年(2023)12月12日(火)掲載

昭和初期 8年間営業「萩山ゴルフ倶楽部」

幻のコース 面影探して

閑静な住宅街が広がる瑞穂区萩山町周辺に戦前、わずか8年間だけ存在した幻のゴルフ場を「存じなうか」。『萩山ゴルフ倶楽部』。近くの名古屋女子大(同区汐路町3)内にある「越原記念館」に関連資料が保管されている。学芸員の鈴木孝子さんの案内で、コースの面影を求めて歩いてみた。(古畑克真)



パネルの前で解説する鈴木さん
「いずれも瑞穂区萩山町3で」



①萩山ゴルフ倶楽部と鼎池の名残(手前)
②同様の場所から撮影した現在の住宅街



2026年のアジア競技大会(愛知・名古屋大会)に向け、競技場の整備が進む瑞穂公園の北端、山崎川に向かって西に進んでいると、鈴木さんが「このあたりには昔、大きな池が2つあり、片方の池の大部分を埋め立ててゴルフ場が造られた」と解説してくれた。

1937(昭和12)年に発行された機関誌「公園緑地 第一巻第五号 名古屋特集号」によると、萩山ゴルフ倶楽部は、34年6月に創設された。初めは6ホールのみだったが、数年で9ホールに拡張。敷地は5万3千坪にも広がり、1カ月平均で約千人の利用者が訪

れていたという。90年近くも前に、名古屋にゴルフ文化が育っていたことを知り、ロマンを感じる。往年のゴルフアワードが集ったクラブハウスは、現在の名古屋女子大中学・高校第2体育館(同区汐路町2)にあたる場所であったという。すぐ北西の道路面脇に複数本植えられているソメイヨシノは、来場時の道を彩るために整備された桜並木の名残とされている。

そこから南東に約400メートル移動したパロマ瑞穂北陸上競技場の北側に、昭和初期から、食糧増産のために池埋め立て創設月1000人利用

#記者から

社会人になってからゴルフを楽しむようになった記者(29)からすれば、コースは山中にあるのが普通。今や住宅街として市内屈指の人気がある瑞穂区の山崎川周辺に戦前、ゴルフ場があったとは驚きだった。1941(昭和16)年には、

多数のスポーツ施設を持つ瑞穂公園が完成し、昭和初期から市民スポーツの中心地として発展してきた瑞穂区。3年後のアジア競技大会では、パロマ瑞穂スタジアムがメイン会場となり、市内では過去最大級のスポーツイベントを迎える。スポーツ好きとしては、国際舞台を前にどんな進化を遂げるのか、とても楽しみだ。

ハッシュタグ #なごや

現在の名古屋女子大中高の前身である名古屋高等女学校はゴルフ場ができた翌年の35年に、東区葵町から現在地に移転してきた。同校の歴史資料を展示する越原記念館では、山崎川の流れの変遷や区画整理の記録など、昭和時代の資料も多く保管している。鈴木さんは「記念館では、周辺地域の歴史を解説で紹介している。誰でも観覧できるので足を運んでください」と呼びかける。

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています